

目 次

I . 総括研究報告

- 聴覚障がい児支援のための研修プログラム・テキスト開発のための研究-----1
黒田 生子

(別冊資料)

- 1 . テキスト編集およびDVD監修：「聴覚障がい児・盲ろう児の発達支援テキスト
(DVD付き / 4 番組収録)」(計394ページ)
- 2 . テキスト所収の著作内容(計 131 ページ分):
 - <基礎研修領域 >
 - 第 1 章 「聴覚障がい児・者の QOL と感性的なコミュニケーション」
 - 第 1 章 「盲ろう(視覚障害二重障がい)児・者の QOL とコミュニケーション」
 - <基礎研修領域 >
 - 第 2 章 -1 「スクリーニング検査と精密聴力検査」
 - <応用研修領域 >
 - 第 7 章 「 幼小児の聴覚障害を取り巻く近年の社会情勢の変化」
 - 第 7 章 「聴覚障害・盲ろう(視覚聴覚二重障害)をもつ人のコミュニケーション・モード」
 - 第 7 章 「聴覚障がい児の支援理念の変遷～聴能訓練法から聴覚学習モデルへ」
 - 第 7 章 「聴覚障がい乳幼児の発達支援の考え方」
 - 第 8 章 「臨床発達支援の目的と一般的枠組み」
 - 第 8 章 「0 歳からのコミュニケーションと日常生活をベースにした発達支援」
 - 第 8 章 -1 「発達支援の第 1 ステージ(前言語期前期)」
 - 第 8 章 -2 「発達支援の第 2 ステージ(前言語期後期)」
 - 第 8 章 -3 「発達支援の第 3 ステージ(1 語文期)」
 - 第 8 章 -4 「発達支援の第 4 ステージ(構文獲得前期)」
 - 第 8 章 -5 「発達支援の第 5 ステージ(構文獲得発展期)」
 - 第 8 章 -6 「発達支援の第 6 ステージ(書記言語の運用開始記)」
 - 第 8 章 盲ろう(視覚聴覚二重障がい)乳幼児の発達支援
 - 第 8 章 -1 聴覚障がい児支援をベースにした考え方
 - 第 8 章 青年期以降の社会適応上の問題点と乳幼児期に考えるべきこと
 - 第 8 章 -1 聴覚障がい児の場合

. 分担研究報告

- 1 . 感覚器に障害をもつ子どもの情報アクセシビリティに関する研修テキスト開発研究
-----6
熊井 正之

(別冊資料) テキスト所収の著作内容(計14ページ分) :

- <基礎研修領域 >
 - 第 6 章 「聴覚に障害をもつ子どもの情報アクセシビリティと支援の実際」
 - 第 6 章 「視覚に障害をもつ子どもの情報アクセシビリティと支援の実際」
 - 第 6 章 「共用品・共用サービス(アクセシブルデザイン)」
- 2 . 乳幼児の主体性形成過程およびその障壁に関する研究-----8
大倉 得史

(別冊資料) テキスト所収の著作内容(計30ページ) :

- <基礎研修領域 >
 - 第 1 章 「乳幼児の主体性(こころ)と社会性を育む支援

3. 聴覚障害児・盲ろう児の補装具（補聴器・人工内耳）の装用に関する研究 -----10
森 尚彫

（別冊資料）テキスト所収の著作内容（計39ページ）：

<基礎研修領域 >

第2章「 -2新生児聴覚スクリーニングの実施から支援への流れ」

<基礎研修領域 >

第4章 「補聴器の構造と音の原理」

第4章 「補聴器の種別と特色（気導式・骨導式）」

第4章 「補聴器のフィッティング環境と音質調整」

第4章 「補聴器の特性検査とテクニカルデータの読み取り」

第4章 「補聴器の耳型採型とイヤモールド」

第4章 「補聴器と福祉の助成」

第4章 「人工内耳開発の歴史」

第4章 「人工内耳の構造と音の原理」

第4章 「人工内耳の種別と特色」

第4章 「人工内耳の適応基準」

第4章XI「人工内耳のプログラミング環境とマッピング」

第4章XII「SN比への目配りと補聴環境の整備」

4. 聴覚障害児・盲ろう児の評価・診断のための聴覚検査・発達検査・言語検査に関する研究 ----- 12

野原 信

（別冊資料）テキスト所収の著作内容（計26ページ）：

<基礎研修領域 >

第2章 -1「スクリーニング検査と精密聴力検査」、

第2章 「聴覚障害の重症度と福祉の助成」

第2章 「健常児の聴覚発達」

第2章 「各種発達検査・知能検査・言語検査と実施上の配慮点」

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 ----- 14